

1 労働災害発生状況<平成29年11月末現在>

平成29年11月末時点の死傷者数は387人で、対前年同期比17人(4.6%)増加しました。

主要業種別内訳(発生人数順)

業種	対前年同期比
商業	71人 6人(9.2%)増
建設業	63人 2人(3.1%)減
製造業	54人 6人(10.0%)減
運輸交通業	48人 1人(2.1%)増
林業	13人 3人(18.8%)減

事故の型別(発生人数順)

事故の型	構成割合
転倒	121人(31.3%)
墜落・転落	62人(16.0%)
交通事故	35人(9.0%)
はさまれ・巻き込まれ	33人(8.5%)
動作の反動・無理な動作	33人(8.5%)
飛来・落下	25人(6.5%)

2 休み明けにご注意ください!

労働災害の発生人数を曜日別に見ると、**建設業など、日曜日が休日となることが多い業種では、休み明けの月曜日や火曜日に多く発生**していました。休み明けは、いつもの感覚が戻っていないことが多いのかもしれませんが。作業開始前に危険箇所を具体的に挙げ、安全対策を具体的に確認し、特に、**いつもやっていることであっても、改めて具体的な手順を確認**するようにしましょう。

また、**小売業など、曜日によって繁閑の差が大きい業種では、金曜日から災害が増え始め、日曜日に最も多く発生**していました。週末の勤務が休み明けと重なる場合は特に、繁忙な状況に慌ててしまい、不安全行動に繋がりがやすいことが考えられます。業務開始前に詳細な打合せを行い、**落ち着いて業務に専念できるようなコミュニケーション**をとることで、従業員の接客技術向上と安全衛生水準向上の両立を図りましょう。

年末年始の時期には、「繁忙期」と「長期の休日」の両方が含まれることが多く、さらに、気温の低下・路面の凍結といった気象条件が相まって、労働災害が増加する傾向があります。これまで以上に安全対策を強化し、年末年始無災害を達成しましょう。

3 産業医を活用していますか?

常時使用する労働者が50人以上の事業場では、従業員の健康の保持増進のため、健康診断・ストレスチェックの実施や安全・衛生委員会の開催など、日頃より積極的に活動いただいていると思います。そうした中で、専門性の高さから、産業保健活動の難しさにも日々直面されていることと思いますが、社内の産業保健活動を有効かつ円滑に進めるためには、専門家である産業医の活用が鍵を握っています。

産業医は、職場巡視、安全・衛生委員会の委員、健康診断有所見者への就業上の意見の付与、面接指導、事業者への勧告など、重要な活動を専門家の立場で行います。**こうした活動が効果を上げるためには、産業医に職場のことを詳細に把握してもらうことが必要**です。そのための取組例を御紹介いたしますので参考にしてください。こうした取組を通じて、産業医を巻き込んだ活発な産業保健活動を展開しましょう。

【取組例】

- 社会福祉施設において、新たに福祉用具(スタンディングマシーンなど)を導入する際、産業医の助言を受けながら選定を進め、介護士の負担軽減と利用者の負担軽減の両立を図った。
- 職場巡視や安全・衛生委員会の開催日程を産業医と調整の上、次年度の1年分の日程を確定させ、産業医の出席を確保した。